

～多様な性について理解を深める本～



表紙	〔利用対象〕 / 『書名』 (作者等) / おはなしの概要 (出版社)
	<p>絵本〔小学生児童〕『ふたりママの家で』（パトリシア・ポラッコ 絵・文／中川 亜紀子 訳） 「ふたりママの家」は、他とは変わらない家族の日常が描かれています。「典型的な家族」とは「ちがいがあっても、それは「まちがいはない。「ちがいは恵み。一人でも多くの人々がそう思える社会に一歩でも近づけますように。（サウンズブックス社）</p>
	<p>絵本〔小学生児童〕『いろいろな家族のほん』（メアリ・ホフマン 文／ロス・アスキス 絵／すぎもと えみ 訳） 家族の形や大きさ、暮らし方など、いろいろな家族があります。多様化する家族の形をコミカルなイラストでわかりやすく紹介しています。（少年写真新聞社）</p>
	<p>絵本〔小学生児童〕『ピンクがすきってきめないで』（ナタリー・オンス 文／イリヤ・グリーン 絵／ときありえ 訳） 「女の子らしく」とか、「男の子らしく」とか言うけれど、その「らしく」ってどんなこと？ 「わたしは黒がすき。」「わたしらしくいたい…」と訴えかける心に秘めた力強さを感じられます。自分らしく生きていく大切さが伝わる本。（講談社）</p>
	<p>絵本〔小学生児童〕『わたしはあかねこ』（サトシン 作／西村 敏雄 絵） みんなとちがう毛の色のねこ。だけど、わたしはわたし。そのままの自分がすき。みんなちがって、みんないい！！個性がカラフルに描かれたほほえましくて、あたたかい物語。（文溪堂）</p>
	<p>児童書『こどもジェンダー』（シオリーヌ 著／松岡 宗嗣（監修）／村田 エリー 絵） 「自分らしさ」を見つけて、自分に誇りを持って生きていくことに役立てて欲しい本。生きるために身に付ける力や生活する上での役割は、男の子も女の子も関係ないとジェンダー平等や性の多様性について学べます。子どもの権利を守らなければならない大人の方へもおすすめる本です。（ワニブックス）</p>
	<p>児童書『よくわかるLGBT：多様な「性」を理解しよう（楽しい調べ学習シリーズ）』（藤井 ひろみ 監修） 「さまざまな性」のかたちについて理解が深められる本。一人ひとりの違いを「その人らしさ」として受け止め、お互いを認め合い、すべての人が生きやすい社会を築くために必要な大切なことが学べます。（PHP研究所）</p>
	<p>児童書『いろいろな性、いろいろな生きかた 1 いろいろな性ってなんだろう？』（渡辺 大輔 監修） 「性」と向き合うセクシャルマイノリティ（性的少数者）の方々が語ります。「自分がこうありたいと思う『自分』を望んだだけ。今の社会ではなりたいた自分になる前に、まず男か女かでなくてはならない。その壁を崩したい。」「『あの人、同性が好きらしいよ』とか『あの人、もともとは男の人だったらいいね』と聞かれたら、『そういうこともあるやろう』と自然に返す。こんな風に何事も決めつけなくて、ありのままのその人を認め合えたらもっと豊かで、風通しが良くて、やさしい世界になるんじゃないかな…」 “ありのまま”を大切に考える考えや、「いろいろな性」が大切にされるカラフルな社会をつくってほしいというメッセージが込められています。（ポプラ社）</p>
	<p>児童書『いろいろな性、いろいろな生きかた 2 だれもが楽しくすごせる学校』（渡辺 大輔 監修） 学校をテーマにセクシャルマイノリティ（性的少数者）について学ぶ。学校の中で、男/女のふたつに分かれているものってたくさんあるよね。みんなの意識が変わるだけで差別は無くせるもの。周りの人間を変えていくことが大切です。だれもが自分らしく生きるのが本当の「ふつう」であり「当たり前」のこと。数が多いこと、人と同じことが「ふつう」じゃない。そういうことをみんなにもわかってほしい。（ポプラ社）</p>
	<p>児童書『いろいろな性、いろいろな生きかた 3 ありのままでいられる社会』（渡辺 大輔 監修） セクシャルマイノリティ（性的少数者）の人にとって生きづらいことが、今の社会には実はたくさんあります。みんなが生きやすい社会に変えるために頑張っている人たちの声が集められた本。これからどんな社会をつくっていくか、みんなも一緒に考えよう。セクシャルマイノリティの人が、ありのままに自分らしく生き、そして輝いている姿が感じられます。（ポプラ社）</p>

	<p>児童書『LGBTなんでも聞いてみよう：中・高生が知りたいホントのところ』（QWRC, 徳永 桂子 著） 「性の多様性」について、8人の中・高生からの実際に出た質問について応える形で、知りたい「ホント」のところを語っています。性に関する悩みに寄り添って、ていねいにアドバイスが受けられる本。（子どもの未来社）</p>
	<p>児童書『図解でわかる14歳からのLGBTQ+』（社会応援ネットワーク 著） 図説でLGBTQ+や「ジェンダー」、「性」について、様々な角度から知ったり、学んだりできます。LGBTQ+についてとても身近なテーマとして捉えることで理解が深められ、「自分らしさ」について考えるきっかけとなる本です。（太田出版）</p>
	<p>児童書『男らしさ・女らしさって何？』（このひとみ 文/丸山 誠司 絵） 5人の中学生たちが本音トークを繰り広げ、「自分らしさ」を探る。それぞれの素直な考え方がぎっしりと詰まって、共感し合える本。「自分の人生を決める権利は、子ども自身にある」こと、「子どもの自分らしさを奪わない」ことの大切さを教えてくれます。（ポプラ社）</p>
	<p>児童書『恋の相手は女の子』（室井 舞花 著） 「わたし」は、人から見ると「ぼく」にも「わたし」にもなる。そんな著者の初恋は女の子。同性を好きになることって間違ってる？誰にも悩みを打ち明けられなかった10代「から、彼女との「新郎のいない」結婚パーティーまで、自身の体験と当事者のエピソードを交え、「多様性に寛容な社会」への思いを綴った本。著者が10代の頃に抱いた「ただ『自分らしく』生きたかっただけ…」という言葉が印象的です。（岩波書店）</p>
	<p>児童書『ジョージと秘密のメリッサ』（アレックス・ジーン作 / 島村 浩子 訳） 主人公ジョージ（10歳）の心は女の子。自らの心の性に気づきながらも、そのことを誰にも打ち明けられず日常をもがいて過ごす。「男の子のフリをするのは本当に苦しいんだ…」。学校の劇舞台で女の子になりきって演じるきっかけから、親友や家族に本当の自分を打ち明けはじめ。次第にジョージの気持ちに寄り添い、受け入れていくあたたかさ、憧れの女の子に近づくジョージの喜びと幸せが描かれた物語。（偕成社）</p>
	<p>一般書『遠藤まめた「みんなが自分らしくいるためのはじめてのLGBT」を読んで』（市石 美寿々 著） どうやって自分を助けることができるのか？打ち明けられない場合の対処法、カミングアウトをする場合のポイントなどを教えてください。個性についての考え方—それはまわりの環境をどう整えるかが重要です。恋愛や家族について、様々な事例を紹介し、普遍的なレベルで性別やセクシャリティにまつわる違いを超えて、共感できる考え方が詰まった本。（明治大学図書館）</p>
	<p>一般書『エリンとみどり ジェンダーと新しい家族の形』（エリン マクレディ 著・もりた みどり 著） トランスジェンダーの米国人女性エリンと、日本人女性のみどりは、結婚21年目の「夫婦」。エリンは日本の役所に性別変更を申請したが認められず、裁判を起こした。エリンとみどりと子どもたちの、新しい家族の形を紹介する。（天夢人）</p>
	<p>一般書『LGBT BOOK：NHK「ハートをつなごう」』（NHK「ハートをつなごう」制作班 監修） レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー…。NHK教育テレビ番組「ハートをつなごう」が送る、多様な性をポップに学べる一冊。当事者たちのストーリー、石田衣良の書き下ろし短編小説などを収録。（太田出版）</p>
	<p>一般書『LGBTQを知っていますか？：“みんなと違う”は“ヘン”じゃない』（日高 庸晴 監著/星野 慎二 ほか 著） レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスティングといったセクシュアルマイノリティを解説。当事者の体験談や学校現場への提言などを収録する。自分と違う性のあり方を持つ人のことを知る一冊。（少年写真新聞社）</p>

※これらの書籍は、木津川市立図書館で借りることができます。